

# 留学前後の英語力分析による今後の英語指導の検討

～カナダ・オーストラリア3か月留学の学習効果を最大限に高める～

## English Proficiency Before and After a 3-Month Study Abroad Program

－Potential of the NJC integrated Ryugaku System－

牟田 美信

### 1. はじめに

3か月間の留学制度を始めてから今年で6年目になる。毎年、留学の反省点を点検し、次年度の留学をより充実したプログラムにするために学生からの聞き取り調査や提出させるレポートにより改善を加えている。その甲斐あって、ここ数年、ホームシックになる学生もほとんどなく、留学の初期の段階から英語学習に集中できるようになってきており、帰国後の英語力も向上している（牟田、2003、2004、2005）。短大に入る前までは自分の英語力では、到底留学などできないだろうと考えていた学生も希望通り留学を体験でき、個人差はあるものの英語力や異文化理解力をつけている。

今回は、新たに導入したコンピュータを利用した英語力テストとインタビュー形式でのテストを留学前後に実施し、留学が英語学習にどのくらい効果があったかを検証し、今後、どのようなところに気をつけて英語学習を指導していくべきかを考えてみた。

### 2. 留学前後の英語力分析

#### a. 分析に使用したテスト

今回は、英語科が2008年1月より導入したCASEC（株式会社教育測定研究所）を用いて学生の英語力を測定した。このシステム導入以前は、1時間程度のペーパーテスト（旺文社）による英語力判定テストを実施していた。このコンピュータベースの試験は、受験する学生が自分のペース（所要時間1時間以内）で受験でき、学生・教員への結果のフィードバックがリアルタイム（終了後すぐ）であることが特徴である。又、出題内容も、学生の回答の正誤、すなわちその学生の英語力に合わせて、コンピュータが出題内容を変えていくというものである。

コンピュータを利用した英語判定テストの信憑性については、現在まで多くの教育機関で利用されており、実証されている（林、2001）。

この試験は、1年入学時4月（1回目）、1年前期終了時8月（2回目）、1年後期終了時2月（3回目）、2年前期終了時8月（4回目）に実施しており、2年間の就学期間に計4回の英語力判定テストで英語力の推移を見ていくものである。

各測定項目は以下のようになっている：

セクション1：「語彙の知識」 空所補充、4択択一、15問、配点250点、解答時間60秒

「日常生活・学校生活・ビジネスの場などに密着したシチュエーションの中で実際によく使われる、語彙の知識を測定」

セクション2：「表現の知識」 空所補充、4 択択一、15 問、配点 250 点、解答時間 90 秒

「日常生活・学校生活・ビジネスの場などに密着したシチュエーションの会話の中で、実際によく使われる表現の知識及びその用法を測定」

セクション3：「リスニングでの大意把握力」 リスニング、4 択択一、15 問、配点 250 点、解答時間 60 秒

「日常生活・学校生活・ビジネスの場などに密着したシチュエーションの会話やニュース・機内放送などを聞き、その内容の大意を理解する能力を測定」

セクション4：「具体情報の聞き取り能力」 リスニング、ディクテーション、10 問、配点 250 点、解答時間 120 秒

「日常生活・学校生活・ビジネスの場などに密着したシチュエーションの会話などの多い情報の中から、コミュニケーションをはかる為の、または、内容理解のキーポイントとなる具体情報を聞き取る能力を測定」

#### b. 留学前後の CASEC による英語力分析

表1は、カナダ・オーストラリアへ3か月間留学した学生の、各回のセクション1～4の英語テスト結果である。又、「差」は、それぞれ前後の回の点数の差を示す。最終列に表している（4－1）は、1回目と4回目の点数の開きを示している。

Section 1「語彙の知識」：渡航前と直後を比較した場合、7人の学生が7点～57点の伸びを示した一方、5人が4～20点のマイナスの結果となっている。これは、留学生した学生が受講した授業体系が英会話が中心になっているために、日本語で英語の授業を行う場合に比べ語彙力の増加に個人差がみられたのではないかと考えられる。

Section2「表現の知識」：8人の学生が7点～52点の伸びを示し、4人の学生がマイナス1～25を示した。マイナスになってしまった4人の内1人は1点差なので特に問題がないとするが、プレゼンテーションの多さなど「会話中心の授業体系」にもかかわらず、点数が大幅に落ちた理由は疑問である。テスト問題と内容の整合性も確認する必要がある。

Section3「リスニングの大意把握」：1人の学生（－30）を除いて全員、リスニング力はアップしている。平均して34点の上昇をみせている。50点以上伸びた学生が12人中5人も見られた。入学当初より英語力があまり高くなかった学生が今回の留学により飛躍的にリスニング力を中心に英語力を高めた結果になった。やはり、日本語とは異なり、留学時はホームステイをはじめ、四六時中英語に接する時間や機会が多いので、リスニングに関しては、格段に伸びている。

Section 4「具体情報の聞き取り能力」：マイナスだった学生1名（差－19点）、変化がなかった学生（差0点）を除き全員、得点が上昇した。平均27点の上昇となっている。この項目に関しても、英会話を中心とした授業体系になっていたために、リスニングやディクテーションの能力を高めることができたのではないと思われる。

Total 総合得点（グラフ1、グラフ2）に関しては、平均して93点の大幅な英語力の上昇が見られた。もともと英語力があつた学生の点数の伸びは低く、マイナスも見られた。しかし、英語力が短大入学時に低かった学生は顕著な伸びを示した。201点の伸びを示した学生は、農業高校出身で、高校時代も英語の授業が少ないこともあり本学入学当初は英語力があまり高くなかった。留学することには、興味があつたが、非常に不安で出発直前まで留学することを悩んでいたが、帰国後は、まったく様子が変わり、英語に対しても非常に積極的な態度をとるようになった。

留学前後の英語力分析による今後の英語指導の検討

総じて留学した学生全員に見られるが、留学中の英語学習やその他留学学習環境の効果で様々な面で積極的な態度を持つようになり、短大での学習態度にも大きな改善がみられるようになった。検定試験も積極的に受験するようになり、卒業後の進路に関しても真剣に取り組む姿勢が見られるようになった。このことは、留学していない学生にも良い刺激になっているようである。

1 回目：平成 20 年 4 月	Section1(S1)	語彙の知識
2 回目：平成 20 年 7 月	Section2(S2)	表現の知識
3 回目：平成 20 年 12 月（豪 2 月）	Section3(S3)	リスニングの大意把握
4 回目：平成 21 年 2 月	Section4(S4)	具体情報の聞き取り能力

【カナダ留学生】

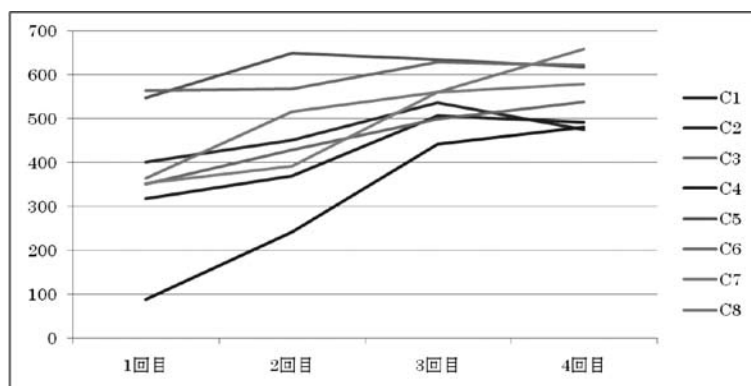
	S1	差	S2	差	S3	差	S4	差	Total	差	
C1 1 回目	104		115		92		91		402		4-1
2 回目	134	30	102	- 13	144	52	71	- 20	451	49	
3 回目	141	7	109	7	155	11	131	60	536	85	
4 回目	107	- 34	146	37	117	- 38	106	- 25	476	- 60	74
C2 1 回目	55		80		88		96		319		
2 回目	76	21	99	19	104	16	92	- 4	371	52	
3 回目	102	26	144	45	147	43	115	23	508	137	
4 回目	84	- 18	151	7	160	13	99	- 16	494	- 14	175
C3 1 回目	84		104		75		88		351		
2 回目	130	46	70	- 34	84	9	145	57	429	78	
3 回目	110	- 20	110	40	153	69	126	- 19	499	70	
4 回目	135	25	124	14	141	- 12	138	12	538	39	187
C4 1 回目	46		20		23		0		89		
2 回目	76	30	66	46	71	48	29	29	242	153	
3 回目	72	- 4	117	51	144	73	110	81	443	201	
4 回目	109	37	147	30	127	- 17	98	- 12	481	38	392
C5 1 回目	95		150		141		162		548		
2 回目	144	49	182	32	177	36	146	- 16	649	101	
3 回目	132	- 12	162	- 20	179	2	162	16	635	- 14	
4 回目	151	19	141	- 21	170	- 9	155	- 7	617	- 18	69
C6 1 回目	117		153		151		143		564		
2 回目	159	42	150	- 3	142	- 9	117	- 26	568	4	
3 回目	200	41	131	- 19	156	14	143	26	630	62	
4 回目	133	- 67	151	20	157	1	182	39	623	- 7	59

C7	1回目	85		83		76		109		353		227
	2回目	86	1	79	-4	112	36	115	6	392	39	
	3回目	143	57	110	31	162	50	146	31	561	169	
	4回目	139	-4	148	38	167	5	126	-20	580	19	
C8	1回目	140		158		66		0		364		296
	2回目	143	3	152	-6	126	60	95	95	516	152	
	3回目	137	-6	165	13	165	39	95	0	562	46	
	4回目	172	159	174	135	174	174	140	94	660	98	

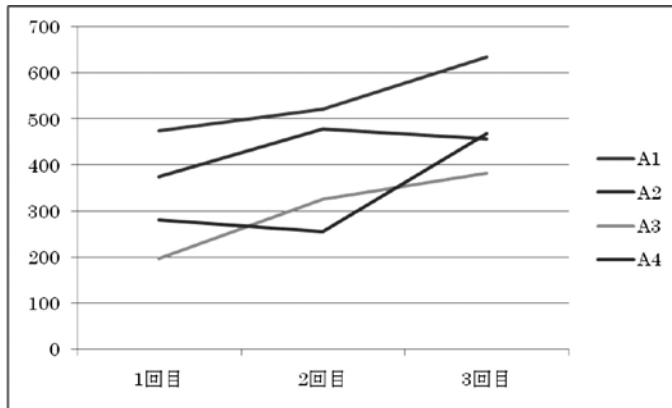
【オーストラリア留学生】

		S1	差	S2	差	S3	差	S4	差	Total	差	
A1	1回目	115		112		134		113		474		161
	2回目	118	3	129	17	144	10	130	17	521	47	
	3回目	127	9	170	41	201	57	137	7	635	114	
A2	1回目	92		96		90		98		376		81
	2回目	113	21	123	27	131	41	112	14	479	103	
	3回目	141	28	98	-25	101	-30	117	5	457	-22	
A3	1回目	58		62		5		72		197		185
	2回目	80	22	96	34	117	112	32	-40	325	128	
	3回目	69	-11	95	-1	139	22	79	47	382	57	
A4	1回目	54		81		64		82		281		188
	2回目	69	15	54	-27	75	11	58	-24	256	-25	
	3回目	123	54	106	52	131	56	109	51	469	213	

表1. カナダ・オーストラリア3か月留学生－CASEC 英語得点表



グラフ1 カナダ3か月留学生 総合得点の変化



グラフ2 オーストラリア3か月留学生 総合得点の変化

### c. 英語面接試験による英語力分析

今回は、留学前と後に外国人講師に英語での面接テストを実施してもらい、その様子をビデオに撮ったものを外国人講師と著者として視聴し、英会話面接試験評価票（表3）に基づき評価した。調査項目としては、Pronunciation and Intonation（発音とイントネーション）、Vocabulary, Grammar, Word usage（語彙、文法、単語の使い方）、Content（内容）、Attitude（態度）、Naturalness（自然さ、流暢さ）、Target Language Usage（英語全体の使い方）、Flow（会話の流れ）の7項目である。それぞれの項目は、8点満点としており、各項目の合計をインタビュー形式の総合得点とした。

面接内容は2部構成にしており、1部では、まず短い英語の文章を渡し、内容を黙読させ、音読させるもの（英検の2次面接試験様式）。2部では、自由質問形式で面接官が質問する内容に英語で答えてもらうものである。

この評価表は、長崎短期大学の英会話の授業の最終評価に使用しているものである。Level 1 可（Poor：点数1～2）、Level 2 良（Satisfactory：点数3～4）、Level 3 優（Good：点数5～6）、Level 4 秀（Excellent：点数7～8）の4レベルとそれぞれの得点になっている。

表2は、表3の評価基準に従い実施した、留学前後のインタビューの数値結果とコメントである。この基準では、各項目が8点満点、7項目の合計56点満点となる。このインタビュー評価は、カナダ留学の学生のみとした。

カナダ留学生全員、留学前より留学後の方がすべての項目及び総得点において伸びを見せた（2点～11点）、伸びが2点の学生C5に於いては、留学前の得点がほぼ満点に近い点数だったので、伸び自体が顕著でない。

全体的に、「発音とイントネーション」自体に特に大きな変化は見られなかった。しかし、「語彙、文法、単語の使い方」の項目での伸びが目立っている。その他には、「自然さ、流暢さ」、「会話の流れ」、「内容」、「英語全体の使い方」「態度」の順に向上が見られた。

インタビュー形式のテストに於いても、明らかに留学後に英語力が伸びていることが分かった。インタビュー時の態度でも、留学後は、留学前には見られなかった堂々とした自信を持った話し方をするようになっており、自由形式の会話の内容也多岐にわたるようになってきている。留学で得たも

のを聞いてみると、英語力以外のもととして、様々な人とのコミュニケーションやかかわりを通して人間として確実に成長できたとのコメントを全員から聞かれた。

NJC ORAL INTERVIEW: EVALUATION OF CONVERSATIONAL FLUENCY

Students								
		Pronunciation and Intonation	Vocabulary, grammar and word usage	Content	Attitude	Naturalness	Target Language Usage	Flow
C1	Pre Study Abroad	6	4	6	5	4	7	6
	Post Study Abroad	6	5	7	7	7	7	7
		Total /56						
		38						
		46						
Comments:		Active Listening has improved. She now repeats questions. She seems more natural. Conversation seems much less regurgitated Still seems nervous but seems much more natural in post interview.						
C2	Pre Study Abroad	6	4	5	6	6	5	6
	Post Study Abroad	6	6	6	7	7	7	7
		Total /56						
		37						
		45						
Comments:		Body language and voice are clearly demonstrate that she is more relaxed in post interview Communication skills have improved: asks for help or clarification Vocabulary usage has increased.						
C3	Pre Study Abroad	6	5	5	6	6	6	5
	Post Study Abroad	6	6	6	7	7	7	6
		Total /56						
		39						
		45						
Comments:		Cleary has improved in many areas of conversational fluency. Appears far more calm and relaxing in post interview. smiles more and nods her head to show understanding or cue that she is done speaking						
C4	Pre Study Abroad	5	3	4	6	4	5	4
	Post Study Abroad	5	6	5	7	5	6	6
		Total /56						
		31						
		40						
Comments:		Showed the greatest amount of overall improvement Vocabulary usage is much higher Basic grammar has improved Appears much more confident and relaxed						
C5	Pre Study Abroad	6	7	8	8	8	8	8
	Post Study Abroad	7	8	8	8	8	8	8
		Total /56						
		53						
		55						
Comments:		Demonstrated a high degree of Conversational fluency in pre test Seems slightly more comfortable and relaxed in post interview Excellent speaker. Thoughtful answers.						
C6	Pre Study Abroad	6	5	6	5	4	6	6
	Post Study Abroad	7	7	7	7	7	7	7
		Total /56						
		38						
		49						
Comments:		Greatest improvement is in naturalness. Far more calm and relaxed in 2nd interview She asks clarification if she doesn't fully understand the question in 2nd interview Demonstrate effective use of English interjections in the 2nd interview						

留学前後の英語力分析による今後の英語指導の検討

C7	Pre Study Abroad	5	5	4	6	5	5	4	34
	Post Study Abroad	6	6	6	7	7	7	6	45

Comments: Far more natural, better flow

Clear improvement in body language

Uses longer sentences and gives fuller answers

C8	Pre Study Abroad	5	5	5	6	5	5	5	36
	Post Study Abroad	6	6	7	7	7	6	7	46

Comments: Naturalness has greatly improved. Seems more relaxed. Less anxious.

More hand gestures and interjections used

Better eye contact

Seems to have improved in all areas. Much more confident.

表2 インタビュー形式による英語力評価（カナダ留学者のみ）

留学先での授業内容に関する学生のコメント：

C1「Level339：授業は基本英会話ばかりです。時々、グループを作りプレゼンテーション、映画を見てヒヤリングの勉強をした。」

C2「Level330：様々なプレゼンテーションをしました。グループで他国のレストランに行き、料理やレストランの雰囲気を調べたり違うクラスの人たちの前でプレゼンテーションをしました。」

C3「Level339：メキシコ、ベネズエラ、サウジアラビア、中国、台湾、日本の5カ国の違う人達と勉強しました。他国の人々は積極的に質問したりするので初めは圧倒されました。文法や発音練習が主な授業内容でした。グループプレゼンテーションが何度かあり、その準備をしたり考えたりするのが大変でした。

C4「Level203：私のクラスは日本人4人、サウジアラビア人が6人、イラン人が一人の11人のクラスでした。主に文法を学びながら会話をしたり、プレゼンテーションをしたりしました。毎週月曜日は選択授業があり、私はゲームをする授業とライティングの授業を選択していました。

C5「Level411G：中級クラス。先生が用意してくれたプリントなどを使って文法を学んだり、単語を学んで発音の練習をしたりしました。先生が出したトピックについてグループで調べたり、英文の本を読んで内容を劇で表したりなど、プレゼンテーションでの発表もたくさんやりました。定期的にテストもありました。月曜日は選択授業で、いくつかのある授業の中で自分が受けたい授業を2つ選ぶことができました。私は、ディスカッションとアート・デザインの授業を受けました。

C6「Level339：7カ国という国籍の違う人達と私たち日本人7人合わせて17人というクラスで授業を受けました。授業の中ではただ教科書に沿って授業を受けるだけではなく、小テストやプレゼンテーションなどがあり、他のクラスメイトと競い合ったり、助け合って一つのもを作り上げたりと、授業の中でお互いにお互いを高め合いながら取り組みました。それがいい刺激になり、頑張ろうという気持ちが自然に芽生え、学校の図書館で遅くまで残って教科書を読んだり、プレゼンテーションのために朝早くから登校したりと、とても充実した学校生活を送ったと思う。もう一つの授業は、プレゼンテーションとゲームの中で英語力を身につけるという授業でした。

C7「Level203：私のクラスは文法中心の授業だった。ゲーム形式での授業やプレゼンテーションなどを通して単語を覚えることができた。クラスメイトの中にはサウジアラビア、イランとあまり知りあう機会のない国の人たちがいて文化の違いなどを改めて感じる事ができた。授業中にハロ



ウィーンパーティーやそれぞれの国の食べ物を持ち合って食べる会などもあって様々な文化に触れることができた。

C8「Level203：授業はテキストブックとプリントで、内容は文法がメインで、単語練習やリスニングがある。単語テストは週に1～2回、宿題は毎日ある。

### 3. 短大での英語指導の検討と今後の課題と展開について

学生自身の問題と言えはそれまでだが、毎年の学生の反省に「出発前に積極的に英会話や英語の勉強に取り組んでおくべきだった」とあるように、これらの学生のコメント（後輩へのアドバイス）をこれから留学する学生に十分に理解させ、充実した留学になるように、指導しなくてはならないと感じた。

留学前の短大での授業の内容やコマ数に関しては、特に不十分であるとは思われないので、これから留学に参加する学生がどのように英語学習に真剣に取り組むようにするかの仕組みを考えなくてはならない。

これには、英語力評価テストだけでなく、英検、もしくはTOEICテストを出発前と後で、計画的に受験させるようにし、日本帰国後も継続的に英語学習ができるようにしたい。そうすることにより、留学中のモチベーションを維持し、さらなる学習の効果も期待できるのではないと思われる。留学中は、どうしても英会話中心になりがちなので、TOEFLやTOEICなどの学習も平行して計画的にするように勧めたい。

また、留学先（カナダ、オーストラリア、イギリス）によって宿題の量、学習システム、留学環境も異なるので、各大学とできるだけ連携をとりながら、より効果的な英語学習ができるように今後協議していきたい。

#### NJC CONVERSATION ORAL EXAM: EVALUATION OF CONVERSATIONAL FLUENCY

	Level 1 Poor	Level 2 Satisfactory	Level 3 Good	Level 4 Excellent
Pronunciation and Intonation	The student's poor pronunciation and/or intonation greatly interfere with communication making him/her impossible to understand	The student's pronunciation and/or intonation interfere with communication, but he/she is understandable	The student's pronunciation and/or intonation cause occasional difficulties in understanding	The student rarely makes pronunciation and/or intonation errors, and is very easy to understand
Vocabulary, Grammar and Word Usage	The student uses a very limited range of vocabulary, and/or makes errors in grammar and word choice that make meaningful communication impossible	The student uses a limited range of vocabulary and/or makes errors in grammar and/or word usage that distracts from meaningful communication	The student uses an average range of vocabulary and makes occasional errors in grammar and word usage	The student uses an advanced level of vocabulary and has accurate grammar and word usage



留学前後の英語力分析による今後の英語指導の検討

Content	Student invites or offers inappropriate or no information	Student does not invite or offer enough information	Student invites and offers appropriate and sufficient information	Student invites and offers information above and beyond the requirements
Attitude	Student does not demonstrate a satisfactory effort. Student may demonstrate some eye contact, gestures, body language or volume but needs improvement in three or more areas.	Student demonstrates a satisfactory effort. Student demonstrates some eye contact, gestures, body language and volume but may need improvement in one or more areas.	Student demonstrates a good effort. Student demonstrates an overall appropriate level of eye contact, gestures, body language and volume but may need improvement in one area.	Student demonstrates an excellent effort. Student uses fully appropriate eye contact, gestures, body language and volume.
Active Participation	Student does not participate in the conversation. Or, student completely dominates the conversation.	Student answers questions but takes no initiative. Or, student somewhat dominates the conversation.	Student engages in active listening and takes some initiative to keep the conversation running smoothly. However, student may be somewhat passive or domineering.	Student engages in active listening, takes initiative and keeps the conversation running smoothly but avoids dominating the conversation
Naturalness	Student utters only memorized words or phrases and/or demonstrates very little or no confidence in communicating in English	Student communicates but may lack some confidence and/or appear to be stressed. Conversation seems very rehearsed and/or regurgitated.	Student communicates in a fairly confident, relaxed, calm manner. Conversation may seem slightly rehearsed and/or regurgitated.	Student communicates in a completely confident, relaxed, and calm manner. Conversation is not rehearsed and/or regurgitated.
Target Language Usage	Student speaks native language and rarely speaks English	Student can communicate but often uses native language to support meaningful understanding	Student communicates well but occasionally uses native language, space fillers and/or onomatopoeia	Student is able to communicate fully and does not use native language, space fillers or onomatopoeia.
Flow	Conversation is fractured with extremely long pauses	Conversation is fractured with long pauses	Conversation is somewhat dynamic and flows well from interviewer to interviewee with no inappropriate pausing	Conversation is dynamic and flows from partner to partner with no inappropriate pausing
Overall Fluency	Student demonstrates a poor level of English conversation fluency.	Student satisfactory an adequate level of English conversation fluency.	Student demonstrates a good level of English conversation fluency.	Student demonstrates an excellent level of English conversation fluency.

**Pronunciation:** Appropriate pronunciation of individual sounds, the linking of words and stress.

**Intonation:** Appropriate use of rhythm, word and/or sound stressing and pitch.

**Active Listening:** Listener shows interest and recognition of speakers comments. Also, clarifies when necessary.

**Overall Conversational Fluency:** Verbal description of the student's conversation fluency based on the scoring of all the conversational skills.

表 3 英会話面接試験評価表（長崎短期大学・英語科）

参考文献

林規生 英語能力測定における CAT の適応例と効果測定 計測と制御 40(8), 572-575 (2001)

牟田美信 実践的英語教育の試み (1)、長崎短期大学紀要、15, 1 - 11 (2003)

牟田美信 実践的英語教育の試み (2)、長崎短期大学紀要、16, 59 - 67 (2004)

牟田美信 短大 2 年間の英語力の変化と 3 か月留学の効果、長崎短期大学紀要、17, 75 - 85 (2005)